

ジュゴン保護 関心高く

辺野古新基地は生態系破壊

【名古屋市で与那原良彦】生物多様性条約の第10回締約国会議（COP10）の関連イベント・生物多様性交流フェアで、23日、沖縄ジュゴンの保護や琉球列島の環境破壊の脅威などをテーマにしたシンポジウムがフォーラム会場の名古屋学院大で相次いで開かれた。隣接する白鳥公園の特設会場では、沖縄の自然保護団体などで構成する沖縄・生物多様性市民ネットワークのブースに見学者が後を絶たず、高い関心を示した。

生物多様性交流フェア

ジュゴン保護キャンペーンセンターが主催した「沖縄ジュゴン保護と日本の国際責任」と題したシンポジウムは、沖縄・生物多様性市民ネットワーク事務局長の吉川秀樹さんが、絶滅危機を迎えている沖縄本島北部のジュゴンの状況を説明。「日米西政府が進める名護市辺野古の米軍基地建設計画はジュゴンだけではなく、豊かな生態系全体が破壊される」と強調した。また、ジュゴン保護の取

沖縄ブース大盛況

り組みを奨励する国際自然保護連盟の勧告・決議や生息国などで結んだジュゴン保護覚書などを挙げ、「日米政府に国際的な圧力でジュゴン保護を働きかけることが重要」とし、「情報を共有し、実際に自分たちができることに取り組むべきだ」と訴えた。

同事務局次長の河村雅美



さんが米国家歴史保護法に基づきジュゴン訴訟やジュゴンについて文化的重要性をアピールした。

同会場で、WWFジャパンが主催する「琉球列島の生物多様性に対する脅威」のシンポジウムが開かれ、ヘリ基地いらない二見以北十区の会の浦島悦子さんは大浦湾の自然と住民の営みを紹介。「大浦湾の自然と生物多様性が住民の命と暮らしを守ってきた。自然破壊は未来世代の存在基盤を壊す」と辺野古への新基地建設反対を主張した。

.....
沖縄のジュゴン絶滅危機と日本政府の国際責任を問うシンポジウムは23日、名古屋市内の名古屋学院大